

音更町総合計画審議会会議結果（要旨）

会議名	音更町総合計画審議会 経済部会（第2回）
開催日時	平成27年7月21日（火） 午後7時から午後9時
開催場所	音更町役場2階 第1・第2委員会室
委員出席者	畠部会長、土田部会長代理、勝野委員、木村委員、坂井委員、鈴木委員、辰尾委員、谷内委員、林委員
事務局出席者	津本経済部長、福地農政課長、井原商工観光課長、重堂産業連携課長、山本土地改良課長、加藤農業委員会事務局長、傳法企画財政部長、西岡企画調整係長、清水企画調整係主任
議題・諮問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 部会長あいさつ 2 会議の進行等について 3 議件 <ul style="list-style-type: none"> (1) 基本計画の見直しについて 4 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・次回審議会の開催日程について
会議資料	基本計画修正案、施策評価調書
会議結果	下記のとおり
出された主な意見等	<p>■商業 ※前回審議の補足</p> <p>事務局：前回の審議結果を踏まえ、表現について修正したい部分があるので、ご審議いただきたい。</p> <p>現状と課題の3つ目「商業団体の基盤強化をはかり、ハード、ソフト両面にわたって」という記載があるが、ハード・ソフトと表現しなくても意味が通じるので、「商業団体の基盤強化をはかり、各種事業を進めていくことが必要です」と修正したい。また、次の「商店街は」という表現については、「商業ゾーン」という表現に修正したい。</p> <p>めざす方向の1つ目の「商店街」を「商業者」に修正したい。2つ目を「地域コミュニティの場としての役割を果たし、少子高齢化や多様化する消費ニーズに対応していくため、各地域の実情にあった商品サービスを提供する店づくりを支援します。」という表現に改めたい。</p> <p>施策(1)②、③の「商店街の振興」、「商店街の活性化」を「商業者の振興」、「商業者の活性化」に修正したい。</p> <p>目標指標(1)商工会員数については、前回の審議会で、事業所数ではなく組織率がいいのではないかという意見があったが、分母で大きく変わる可能性があるため、事業所数のままとしたい。(2)町融資利用実績額について、目標数値を4億9千万円から5億7千万円に修正したい。これについては、工業の分野にも関係するので、※印などで説明が必要と考えている。</p> <p>部会長：まず「商業ゾーン」という表現はいかがか。</p> <p>事務局：これまでも、音更市街の中央通商店街の振興策などがあったが、これらを全否定するわけではなく、商店街といたらそこに限定されてしまうのではないかという部分と、大型店との差別化を意図しての振興策、大型ではない店舗などを表現しようとするところで、商店街も商業ゾーンも変わらないといえば変わらないのだが、どういう表現がしっくりくるのか、その辺りをご審議いただきたいと思っている。</p> <p>委員：大型店と区別するニュアンスであれば、「商業ゾーン」より「商店街」の方が強いと思う。商業ゾーンとしてしまうと、大型店も含まれてしまうイメージになるような気がする。</p>

委員：商店街の定義はないので、この表現を使っても使わなくても構わないと思うが、法律的には商店街振興法に基づくものがあり、例えば札幌でいえば狸小路商店街など、法律に基づく括りはあるが、音更では中央通商店街は昨年解散したので、法に基づくものがひとつなくなった。ただ、すずらんスタンプ協同組合は残っているので商店街という表現でも問題はないだろうが、現状に合わせてどう表現するかということだと思う。

事務局：ここで表現したいのは、小規模店舗は地域コミュニティの場となる潜在的な力を持っていることから、大型店と差別化した上で振興を図りたいということ。「商店街」の表現は、「商業者」と変えてはどうか。大きく本筋を外すことはないと思うのだが。

部会長：異論がなければ、「商店街」は「商業者」に置き換えるということで進めていただきたい。
めざす方向の表現を変える点、施策の修正、目標指標についてはどうか。

委員：町融資利用実績額の目標値は全体の融資枠が増えるという意味か。

事務局：一概には言えないが、物差しの一つとして、設定したい。現在の利用状況からみて、数値を上げて目標値とした。

部会長：その他意見等がなければ、事務局案のとおり進めていただくこととしたい。

■工業、企業誘致

委員：「音更ブランド」と「地域ブランド」という表現が混在しているが、使い分けはあるのか。

事務局：使い分けは特にないので、「地域ブランド」に統一したい。

部会長：特別こだわりがなければ、統一する方向で、事務局で整理をお願いしたい。

委員：IC 工業団地の拡張について、企業誘致の目標数値が出ているが、面積的な規模などはまだ公表できないものなのか。

事務局：エリアとしてのイメージは持っているが、相手のある話でもあり、また、緑地など細かい部分の協議も必要なことから最終的な面積までは示すことはできない。目標指標としては企業立地件数を一つの物差しとしてご理解いただきたいと思う。単純に、新たな企業進出だけではなく、移転も含まれてはいるが、移転に伴って規模が拡大され雇用増が発生しているということもあり、このめざす方向、IC 工業団地拡張への取り組みを進めるのが一番のポイントと考えている。第5期総合計画策定時点では、ここまでの売れ行きを想定しておらず、拡張という言葉は入っていなかったが、ここ1、2年で一気に売れ、議会からも次の準備が必要との話も出てきており、その作業にも入っている状態。今後5か年の間にどこまで取りかかれるかというのはあるが、盛り込みたいと考えている。もちろんまだ残りの区画もあるので、誘致する企業数も増やしていく方向性で考えている。

部会長：残っているのは2割程度ということだが。

事務局：小さい区画しか残っておらず、大区画を購入したい企業には対応できない状態。将来計画として目を付けていただいている企業もあるので、将来的には大区画をメインに造成しようと考えている状況。

部会長：高速道路の開通に関連して、工業団地の拡張が間に合わなければ誘致できないといったこともあるのか。

事務局：特に物流については、あくまでもターゲットは十勝・帯広近郊、その中でも利便性の面では、どこの方面にも動きが取りやすい音更のインターチェンジという話を聞く。音更に事業所機能を置くというのは、ここが一番動きやすいと

ということと、労働基準法の関係もあり、ドライバーの休憩施設を整備しなければならないということもあるようだ。諸々のことを考えると、IC 工業団地の拡張は、この先 5 年間、また、第 6 期総合計画にも引き継いでいかなければならないと思う。

■観光

事務局：現状と課題の 5 番目について、修正案では「旧ホテル跡地に整備される新たな集客拠点施設」としているが、「新たに整備される集客施設」という表現に修正したい。

目標指標（2）について、観光協会のホームページアクセス数を数値としているが、平成 26 年度の中間数値 50 万 7 千件を 69 万 9,714 件に、目標数値 67 万 6,000 を 71 万件に修正したい。

委員：音更町商工会で取り組んでいるメロディーライン構想を、地域のブランド化ということでもどこの施策に入れていただきたい。

事務局：例えば、（2）音更の魅力の活用、PR に新たに追記しても問題ないのではないかと考えている。

委員：めざす方向の 5 つ目で、「緑」という文言が追加されているが、「花と緑」ではだめか。十勝川温泉にはハナックもあるので、花という文言を追加してはどうか。

事務局：「花と緑」ということで、追加して問題ないと思う。

委員：施策（1）②について、二次交通というのは、ぼんやりとした言葉であって、例えば札幌圏から、千歳圏からというように明記する必要はないか。

事務局：後の可能性のことを考慮し、ここではあまり特化せず一般的に使われている二次交通という表現で考えている。

委員：道央圏、道東圏に対する二次交通の充実というような表現を検討していただきたい。

事務局：二次交通という言葉がなくすと、事業展開に影響が出るかもしれないが、道央圏と道東圏の連携というような表現を加えることは可能だと思うので、検討する。

委員：施策（2）①に「食」とあるが、「食」とは何を指しているのか。食材を指すのか、作っている人を指すのか。

事務局：すべてを含んで「食」という解釈。

■勤労者福祉

事務局：目標指標（1）について、平成 26 年度中間数値 59 を 70 に、目標数値の 70 事業所を 90 事業所に修正したい。

委員：あおぞら共済とはどういうものか。

事務局：中小企業などで、福利厚生がしっかりしていないところを、オール十勝で組織を作って還元していく福利厚生事業。PR の必要性も感じているところ。

部会長：生活資金などの融資は、社会福祉の部会の方で審議しているのか。

事務局：労働者向けの福祉資金ということであればこの分野の話になるが、実際は償還だけで新たな貸出はない状態。

部会長：短期就労事業、冬期間の就労などはこの分野ではないのか。

事務局：就労支援事業は、音更、土幌、上土幌、鹿追、新得、清水、芽室、幕別で、十勝北西部通年雇用促進協議会を組織し、季節労働者の通年雇用化に向けた事業を行っている。短期の部分については載せていない。町独自の事業としては、短期就労については、道路清掃だとか土木サイドの事業として実施している状況。

■総合戦略策定に向けて

委員：帯広市や幕別町で住宅の新築に対して補助金があるようだが、人口増に関しては住居というものがベースになり、そこで補助金というのは強みになると思う。

事務局：ご意見として承りたい。

委員：空き家を利用して他の地域から住んでもらう方法として、お試し期間を設けるといえるのはどうか。

事務局：実際に取り組んでいる自治体もあり、その辺りも目を向ける必要があると考えている。

委員：「住んでみたい北海道推進会議」での取り組みなどを検討してはどうかと思う。また、新たにできる学科を活用した学生の誘致も人口増加につながると思う。

委員：音更町まちづくりアンケート中で、働く場がない、観光、道路、除排雪、この4つの満足度が低い。音更は住みやすく企業も働く場もあり、となれば色々な選択肢が出てくる。企業が新しく進出しやすい環境を整えることが人口増にも繋がり、観光振興することで交流人口も増えて、良い町と評価されていくのではないかと思う。大企業が来れば一気に雇用増につながるのわかるが、そうではなくて、例えば空き店舗で起業ができるような場づくりは必要ではないかと思う。長い目で、若い人に働く場をつくる環境づくりが必要では。

部会長：基盤産業への就労人口が増えれば、それに付随して全体の就労人口も増え、人口増につながるのではないかなと思う。

※次回専門部会開催日時を8月26日（水）午後7時からとした。